

2022年度法学研究科博士前期課程（第2次）入学試験問題

科目：知的財産法

以下の各文章について、正しい場合は「○」、正しくない場合は「×」を記載し、いずれの場合にも、その理由を述べよ。

1. 新しいビジネスの方法を考え付いた者は、その方法について特許権を取得することにより、他人が同じ方法を用いてビジネスを行うことを止めさせることができる。
2. ソフトウェアは無体物であるが、物の発明として特許を受けることができる。
3. Aがした発明についての特許出願の願書に、Bが発明者として記載され、そのことを審査官が発見した場合、当該特許出願は拒絶される。
4. 特許権の通常実施権は、その許諾後にその特許権を取得した者に対して効力を有するには、登録をしなければならない。
5. コンピュータ・プログラムは、特許法によって保護されるため、著作権法では保護されない。
6. 物品のデザインは、意匠法によって保護されるが、著作権法によっても保護される場合がある。
7. 他人の著作物を複製することは、私的使用を目的とする場合であっても、複製権侵害となることがある。
8. 著作者人格権侵害による損害額の算定は容易ではないため、著作権法にその損害額の推定等の規定が設けられている。
9. 公知意匠に類似する意匠であっても、登録することができる場合がある。
10. 未使用の商標は、商標登録を受けることはできない。